

町登りなり。三四町計りにして右の方に堂あり。夫より少し登りて社右にあり。高天原といふ。とあるが、今川以昌の白山遊記には、『至高天原有祠址』とあつて、祠は既に存在しない。

夕カマツ 高松 石川郡宮保内の小字。

夕カマツ 高松 河北郡金津庄の最北部に在る海岸の聚落である。この地室町時代に於いて、能登に入る沿道の里圖であつたことは、之を道輿の廻國雜記に、『同じ國高松といへる所に行暮て、煙のたつをながめやりて、すむ人のたのむ木蔭やそれならん烟にくるゝ高松の里。』と見えて、彼がこゝを通過してゐるのでわかる。藩政時代でも依然本街道であつたことは、能登名跡志によつて知られ、今の縣道は明治中の開鑿である。部落の位置に就いては、越登賀三州志に、『今枝直方云。今の高松驛は中古と別所なれども、世人其ことを不知云々。今の高松驛は三度目の轉地也。天正後海濱つきよせ、末森攻のときの驛にては居住ならず。山手へ居所を移して數十年を經るに、又海濱つきよせ、其驛も堪へ難く、又山際へ數十間、或又其後百餘間も立退きたる也。』とある。

夕カマツガタ 高松潟 河北郡内高松の部落東北方の低地は、比較的近代に於いて一の湖沼であり、その水横山の西を經て宇氣に至り、宇野氣川に入つた。三州紀聞に、『内高松の潟に鯉鮒三寸より大き成は、皆片目にて有し也。』とある。

夕カマツシン 高松新 河北郡金津庄に屬する部落。明治中に至り長柄を併合した。

夕カマユキヒテ 高間行秀 建武二年八月

名越時兼越中に於いて兵を擧げ、前代北條氏の勢力恢復を謀り、國司中院定清は之と干戈を交へた。この際九月大和の住人高間大貳房行秀の下つて定清を援けたことは、珠洲郡鶴の妙嚴寺文書に見える。行秀の兄利遠四世の孫に玄宗があり、來つて妙嚴寺四代に住した。是を以て行秀の事蹟は同寺の文書によつて知られる。

夕カミ 高見 石川郡北安田内の小字。

夕ガミ 田上 河北郡金浦郷に屬する。三宮古記に田上の名多く見え、中古白山宮の神領があつた。今上田上・下田上に分かれてゐる。

夕ガミウチ 田上氏 官地論長享二年六月富樫政親の妻子を送つた條に、木越の從弟田上兵部があり、又高尾城で切腹したもの、中に田上入道がある。

夕ガミエキ 田上驛 加賀の古驛。兵部省式に加賀國田上驛馬五匹と見えるもので、今河北郡に上田上・下田上が存するが、其の地は驛路の通すべき所ではない。蓋し今の田上は田上郷の本郷で、置驛の所は尙遙かに西北にあつたことと思はれ、恐らくは金澤の附近に當るのではあるまいか。

夕ガミゴウ 田上郷 河北郡の古郷名で、和名抄に『加賀郡田上、多加美』とある。後世上田上村・下田上村がある。

夕カミチ 高道 金澤の舊町名。御小人町の裏で、御小人下町邊であるといふ。淺野川の北方にも高道町といふがあつて、昔はその附近卯辰山の麓なる荒地で、小高い道路であつたから高道の名があると龜尾記にいうてゐるから、この高道も同意の名稱であらう

が、今は平地である。

夕カミチマチ 高道町 金澤の町名。昔は卯辰山の末であつたから、この名がある。

夕カミチヤマ 高道山 金澤油木山の舊名で、その麓を高道町といふから起る。

夕カミネ 高峰 河北郡氣屋の部落東方に在る山。

夕カミネジユウロザエモン 高嶺十郎左衛門 伊豫西條侯一柳直興が金澤に配流せられた時の從臣の一人であつたが、直興の歿後、元祿十五年前田綱紀に二百石を以て祿せられ、寶永二年に歿。子孫世々藩に仕へる。

夕ガミホ 田上保 中原康富記寶徳三年十月卅日の條に、『加州田上保、去永享五年拜領大炊寮領内也。守護及難波候間、内々被歎申之間、一昨日昨日被召富樫雜掌於公方被仰付。』と見える田上保は、和名抄所載加賀郡田上郷の地である。

夕カミヤタタカツ 高宮忠一 通稱長左衛門。貞享の頃の人で鑄工であつた。能美郡尾添にある地藏尊には、治工金城住高宮長左衛門忠一と刻してある。

夕ガミヤハクジユ 田上屋白樹 金澤の俳人。通稱九之吉。年風に學んで、柿丸舎四代を稱した。

夕カムラヨリモト 高村依元 通稱佐五右衛門。駿曹。定番御歩小頭として新知百石を受け、文化五年坊主頭となり、文政申五十石を加へ、天保十一年八十九歳で歿。子孫相繼いで藩に仕へる。

夕カメンシナジナチヨウ 高免品々帳 加賀藩では寛文十一年初めて各村高免及び百姓個人所有の高を細録した簿冊を作らせ、村百

姓の持高に異動があれば之に加筆して置き、其の村高の持主と經歷とを明らかにした。この帳簿を高免品々帳と稱し、又單に品々帳とも、百姓品々帳ともいうた。元祿六年切高を許す法が定まつてから、品々帳は一層必要となり、爾後加除訂正等の附紙が多くなつたので、寛延三年之が書換をさせたことがある。斯くて廢藩の時に至るまで、高の移動は専らこの帳冊によつて證明せられることになつてゐた。

夕カモ 高毛 鹿島郡長浦内の小字。

夕カモノナリチヨウ 高物成帳 ↓クミダカチヨウ 組高帳。

夕カモノワタシ 高茂の渡 鹿島郡長浦より、三ヶ口瀬戸を經て、同郡能登島の通に至る間の渡舟をいふ。高茂は高毛とも書く。

夕カモヤマ 高茂山 鹿島郡小牧から中島に越える二軒許の峠をいふ。

夕カヤ 高屋 珠洲郡西海郷に屬する部落。承久三年注進の能登國田數目録に、『高屋浦、二町四反九』とあるものは是である。正保三年の高辻帳にも高屋村と書上げたが、村御印書換の時村方からの申出により高井村と改め、寛文四年の高辻帳にまた復舊した。能登名跡志に、『高屋。大谷より一里二十町餘あり。家數百軒計。此の村は船の懸り潤杯ありて、商家杯もあり、繁昌也。夏中は破船奉行滯留あり。池田氏山廻役あり。其外船持等あつて、よき百姓あり。中にも刀禰といふ者、古き百姓にて、昔より石動山に由縁ありて、泰澄大師の衣として傳へり。』又『磯に嶽として小山あり。此山の腰に船懸り、則ち其腰に在り。百姓を嶽というて、船宿する也。』と記する。